はじめに

今回、私の著作集として18冊を出版することとなった。そのうち3冊は、本書含めて2018年1月に書物として出版し、残りの15冊は電子版として続けて出版の予定である。上記の3冊は社会的、実存的、信仰的各次元を記している。社会的領域を深く問えば、自ずから人としての実存へ至る。

さらにそこから問進めば、宗教的領域へと深まっていく。逆に考えると、最も深い次元での変革なしには、それより上層での変革などは夢のまた夢であろう。

かくて、社会的領域での変革を真に達成しようと思えば、ぜひ最深次元での変革を行わねばならない。これら三領域は真実にはいわば三位一体の構成である。

今回の18冊はいずれも以上の三領域の内のいずれかに属している。もっとも著作によっては、その内容が一領域のみではなくて、複数の領域に関係する場合も存していることもあるが、各著作とも三領域の内のどれかを主領域としている。

次に、2018春までに刊行予定の電子版のものを少し紹介しておきたい。

『経済合理化』では、政治的中央集権に呼応して経済界も種々の非合理性に侵されていることを示す。要は競争原理が働く体制への改革が不可欠である。『人が上がるか神が降るか　補遺　摂理による歩み』では、実存的なイエス信探求に応じての人生の具体的歩みを通して反省している。

そこで人が生きるにあたっての政治・経済・社会などの種々の面とかかわっている。

『無碍・良心・人』『無碍即良心 ― キリスト信仰 ― 』これら二著は実存的な良心に基づいて心深く探求し、またそこよりの実存的、社会的次元への反省である。ただ、前者の方が思想的傾向が強い。

『聖書の示す罪と赦し上下二著』では、聖書の中で最も基本的な層を成す思想的領域を表す。人の罪と神の赦しである。また、『神の名ヤハウェと終末信仰』では、神の本来の名はヤーウェであるが、神は自分の名をイスラエルに向かって主と呼べと啓示された。しかし、むやみに主よ主よと叫んではならないとも。終

末信仰は終末への信頼を顕わにする。

『新約、旧約両聖書の一体性』では、無碍即良心から見れば、双方はともに人の罪と神の赦しを表す。相違点は徹底しているか否かである。

『信仰詩想四著』では、詩の形での主なる神、イエス、人の立ち位置などについての表白である。これはかくて実存的、社会的領域にも関係している。『イエス信日記三著』の各著作内の後半はイエス信自体への思索であり、前半はそこからの社会的次元への思想的展開である。

2017 年 11 月

名木田　薫

個主体の民主制「実体」化

目　次

はじめに……i

序論……1

第１部　日本での西洋型民主主義の限界

第１章　官僚の存在……19
　第１節　官僚とは　19
　第２節　官僚制下での内外への対応　27

第２章　国会議員……43
　第１節　投票側での主体性欠如　43
　第２節　政治理念欠如（長老の統率力不足）　48
　第３節　議員処罰　53

第３章　政党などの集団形成……57
　第１節　個の主体性と党の存在　57
　第２節　個の主体性欠如　68
　第３節　自治会など　74

第２部　民主主義制度の「実体」化

第１章　議員制度変革……85
　第１節　選挙区ローテーション　85
　第２節　政党結成禁止　92

第３節　政党と選挙区　102
第４節　候補者と各種団体との決別　110
第５節　個の良心と変革　115
第６節　個の主体性　128

第２章　首相公選と政治・行政改革 …… 135
第１節　首相公選　135
第２節　首相と政策　138
第３節　衆参両院による複数決定制　145
第４節　行政の不始末と公務員優遇　148
第５節　予定の改革と外国参照　153

第３章　公務員任期制 …… 165
第１節　公務員の特殊性　165
第２節　公務員任期制　176
第３節　官民人事交流　181
第４節　終身雇用の諸問題　188
第５節　国防および教員　192

終章 …… 197